

夢の日々(三)

目玉は一人一人の 手足の中



大 多 和 檀

私は書くことが苦手です。ギリギリまで追いつめてやっと書く、という状態ですが、特に今回は、「夢の日々」に心が戻りません。と言うのも、園児募集の時期を迎え、「熱が出たら家から迎えに行くんでしょか」という質問を受け、現実はこちらまで来ているのか、とがく然としているからです。

これまでも「給食だといんですけど」「バスは家の前まで来てほしい」「もう少し保育時間が長いと」「いろいろな物を作るのが大変」という話が出ていました。

○歳から二歳位までは手間暇かけて子どもを育てていたお母様方が、幼稚園に入る年頃になると急に、「お弁当作りは大変」「パスだと楽」という様になってしまうのか……。

私達の園に、十四年前にお母様方がまとめた、「幼児期家庭教育研究——幼児期における情緒、情操はどのように育まれるか——」という冊子があります。

この冊子の中で、「時にはお弁当木の下で遊ぶ子どもたち
右手の大きな石の下は、川になっています。



を作るのは大変と思う時もありますが、朝、小さなおにぎりをにぎる時、幼稚園に行っている間だけできる幸せだな、いつも感じます」という文章を見つけました（・・・は大多和）。

「幸せ」というのは人によって違います。が少なくとも幼稚園児を持ってらっしゃるお母様が、手間暇かかることを、「今だからできる幸せ」と感じられていたら、そのお子さんは、本当に幸せですし、「夢の日々」を思い出し、出して持てることでしょう。

幼稚園時代のお子さんにしかできない例をあげたらきりがありません。

小さな石を宝物のように大事にできる、広告の紙で作った飛行機を自分も飛んだ気分で飛ばせる、小枝をじっと見つめていつも手にしている、泥のだんごをせっせと作る、将来の夢はセーラームーンになることと言い切れる、ふみちゃん、せいちゃんのように逃げたインコをどこまでも捜しにいける、さおちゃんのようにダンボールで作った鬼を靴先だけ出して家までかぶって帰る、などなど。

長い人生の中で考えたら、こんな時代は二度とありません。

「あとからふり返ったら、こんな夢の日々の中にいる子ども達に、手間暇かけられること、かわかることはなんと幸せなことでしょう」とお母様達に呼びかけたい気持ちで一杯になります。



もう一つ、こんな事も言われます。

「まこと幼稚園の目玉はなんですか」と。

「『まこと幼稚園の目玉はない』というのが目玉です」と応えています。

目玉は幼稚園にあるのではなく、一人一人の子どもの中にあります。

でも、そんな目玉は見えないからダメで、今は見える目玉を選ぶ時代なのだそうです。

それでも、私の夢は、まこと幼稚園を、子どもにとっても、大人にとっても、そこに行けばとりあえずはホッとでき、誰でもが自分らしく過ごせる所にする事です。

それも無理なく、ジワジワとそうなっていくことを……。

それこそ夢の様な話かもしれませんが、少なくとも、お弁当があり目玉がない幼稚園を選んだお母様のいるまこと幼稚園には可能性がある、と信じて、今日も子ども達を迎えています。

(まこと幼稚園)